



「院内患者会世話人連絡協議会」

Hospital Based Patient Advocacy Council

院内患者会世話人連絡協議会 そこにあるものは、

世話人の情報交換、交流の場

世話人のねぎらいをする場

世話人に癒しを提供する場

連絡先：soudan@medicina-nova.com

2017. 5. 1

院内患者会世話人連絡協議会

各患者会世話人 各位

院内患者会世話人連絡協議会

会長 新井辰雄

第21回院内患者会世話人連絡協議会のご案内

拝啓 花の季節の賑いも年度初めの騒めきもいつしか過ぎ去り、爽やかな新緑の季節を迎えました。陽を受けていのちを育てゆく木々の姿は、まさしく患者の皆様やその支援をされておられる患者会の世話役の皆様へ、癒しの光を贈り、生きる励ましの言葉を薫風に託して届けてくれるような気がいたします。院内患者会という細やかな集いも、患者サロンの普及に伴って病院内での患者への支援活動に、新たな風通しの可能性が高まってきているように思われます。

さて、「院内患者会世話人連絡協議会 HosPAC」第21回定例総会を、来る6月17日（土）に、下記の要綱にて開催致したくご案内申し上げます。

今回は、多和田奈津子さんにご講演をお願い致しました。若くからの度重なるがんの罹患にもめげず広く患者支援活動をされて来られた多和田さまを囲み、闘病への取り組み・ピアサポートの必要性・患者支援のための患者会のあり姿やその運営上の問題などを論じる機会にしたいと存じます。現在、多和田さまは、血液疾患の患者への支援活動を全国的に展開し各地に患者の集いを開催されているグループ・ネクサス・ジャパンの活動の中核の任に当たられ、若年がん患者会ローズマリーの世話人として関東を中心としてほかの患者会との交流も積極的に推進されておられ、また、横浜市立大学付属病院内の院内患者会の幹事もされておられます。

総会の前半は、多和田さまのお話を傾聴し、その流れを受けて各患者会の近況のお話など多和田さまを囲んで全員で話し合うように進め、休憩を挟み後半は、皆さまの日頃色々腐心されていること・悩まれている問題など心置きなく話し合うフリートーキングといたします。なお、語りつくせぬ事柄につきましては、閉会後の懇親会も用意いたします。

ご多用な時節とは存じますが、何卒皆さま方の多くのご参加が頂けます様、心よりお待ち申し上げます。

敬具

第21回 院内患者会世話人連絡協議会 総会 議事次第

■ **開催日時** 2017年6月17日（土曜日） 13時—17時

■ **場 所** 東京大学医学部附属病院 入院棟A 15階 大会議室

■ **議事次第**

13:00 1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 新井さん

13:05 2. **【講演】ピアのちから～患者・家族同士の支援を考える**
・・・・・・・・・・ 多和田奈津子さん

14:00 3. 各患者会の近況紹介と多和田さんを囲む交流

— 休憩 —

15:00 4. フリートーキング・・・・・・・・・・（司会）佐藤さん

17:00 5. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 藤本さん

- 付記：1. 多和田奈津子さんのプロフィールとメッセージは、最終ページをご覧ください。
2. 各患者会の近況報告は、各会にお任せいたしますので、内容もご自由にお決め下さい。そして、必要な配布資料などもお持ちいただければ幸いです。
-

【追伸】総会での諸準備の都合がございますので、誠に恐れ入りますが総会へのご出席の有無を、下記様式で事務局宛にメールにてご連絡頂ければ幸いです。

件名：HosPAC 第21回総会の出欠ご回答

宛先：HosPAC 事務局行き

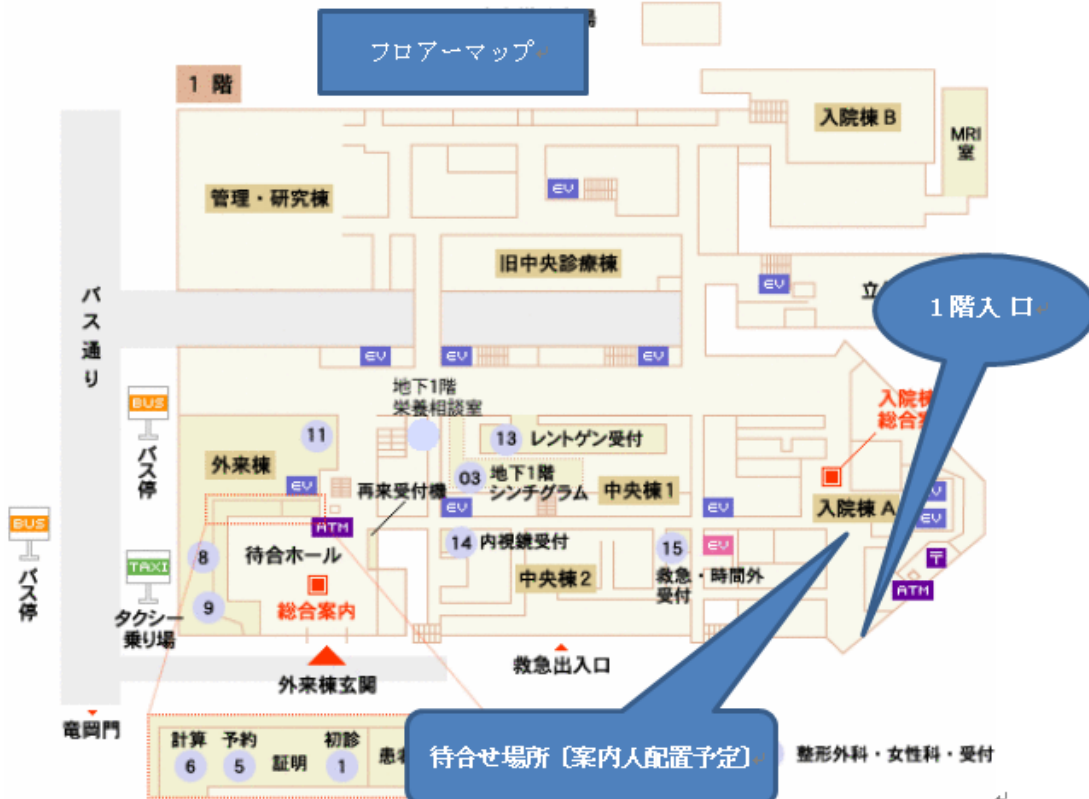
h.fujimoto.sign@gmail.com ; mina3yasu3@tbz.t-com.ne.jp

院内患者会名：
ご出欠： ご出席 ご欠席
参加者ご氏名： 1.
 2.
 3.

ご回答は、出来ましたら **5月30日**までに頂ければ幸いです。

.....

東大病院 A 棟 フロアーマップ (待合せ場所・総合案内所前)





多和田奈津子 さんのプロフィール

- * 横浜出身
- * 東洋英和女学院短期大学保育科卒。
- * 1988 年甲状腺がん罹患で、摘出手術
- * 1995 年朝日新聞社東京本社出版局に契約社員として勤務。
在職中に 1997 年悪性リンパ腫を発病
1997 年秋～放射線治療
1998 年初夏まで化学療法（P B S C T）治療
- * 2002 年に『へこんでも—25 歳ナツコの明るいがん闘病記—』を出版
- * 現在 ①一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事
②若年がん患者会ローズマリー世話人
③横浜市立大学附属病院院内造血幹細胞移植おしゃべり会
「心愛の会」幹事

多和田奈津子さんからのメッセージ

闘病記出版を切っ掛けに、患者経験を生かした講演や患者会活動をして参りましたが、若年で二度のがんを経験し、マイナスだと思っていた病気の体験がプラスへと転じたきっかけや、ピアサポート・患者会がなぜ必要か、また会を運営していく上での問題点、疑問点などをお話ししたいと思います。

多和田奈津子著作のページ

1972年神奈川県横浜市生、東洋英和女学院短期大学保育科卒。95年から朝日新聞社東京本社出版局に契約社員として勤務。在職中、悪性リンパ腫を発病。97年秋～98年初夏までガン治療。

●「へこんでもー25歳ナツコの明るいガン闘病記ー」● ★★



2002年04月
新潮社刊
(1400円+税)

2002/05/05

amazon.co.jp

「癌」「闘病記」というと、どうしても暗く、沈鬱な気分が広がります。しかし、本書は副題にあるとおり、25歳の○Lらしい、明るさ、若さを存分に感じる闘病記です。

では、著者であるナツコさんが、病気に対して楽観的であったのかと言えば、そんなことは決してありません。

誰にしても、癌という言葉を知りただけで脚が震え慄くような気持ちを感じるでしょう。それはナツコさんにしても、少しも変わりません。まして彼女は、16歳の時に甲状腺ガンを経験しているし、今回の癌は“悪性リンパ腫”というまた別の癌。また、妙齢の女性にとって癌宣告は、殊更衝撃が大きい筈です。

しかし、彼女の良さは、常に前向きであること。良くなる可能性と、良くならない可能性の両方あることを聞かされれば、率が少なくなっても、良くなる方を信じる。そして、治療法についても常に積極的に参加していくという姿勢。

健気さというより、彼女のもつバイタリティーの見事さに感心することしきりです。だからこそ、病院設備、治療中の様子、副作用の苦しさ等描く中でも、現代っ娘らしいユーモアが常に跳びはねているのです。

病院の医師・看護婦、彼女が病友と呼んだイチキちゃん、家族、皆が彼女を応援しているように感じます。それは、彼女が病気に対して闘うという前向きな姿勢を、明快に示しているからこそでしょう。

ナツコさんへ絶えずエールを贈りたくなる、そんな闘病記です。お薦め。

25歳・秋／二度目のガン宣告／順調だった放射線治療／新しい治療に挑戦／病友・イチキちゃん／無菌室の世界／29歳・冬